



社団法人 日本助産師会 第4号

宮城県支部だより

平成14年9月1日発行

ごあいさつ 支部長 新田双葉

1、お知らせ -重要

2、会員寄稿 東北労災病院 平塚 聖子

会計 伊藤 祝子

3、第1回宮城県委託講習会報告

ごあいさつ

支部長 新田双葉

会員の皆様、残暑お見舞い申し上げます。特にここ数日は猛暑に見まわれ体調を崩しておられる方もいらっしゃるのではと心配致しております。

地球温暖化の影響もあるのでしょうか。世界の天候も地震・早魃・水害と不安な状況が多く、安心して住めない環境に変わりつつあるように感じます。今、NGOで環境開発サミットも開かれています。未来の子供達の為にも少しでも汚染の減少に努力していきたいと思えます。

さて宮城県支部の14年度の総会も皆様のご協力のもと6月22日に開催され13年度の総括と14年度の事業計画も決まりました。早速7月13日(土)には県委託講習会を開催しました。内容を吟味し今私達助産師が抱える、必要を感じている問題を取り上げてみました。結果としてはもう少し参加者が多ければという思いでした。是非会員一人一人が自分の問題として認識し取り組んで欲しいと思えます。

次に14年度はじめての事業として、

1. 会費自動振込み用紙の収集。
(会計、書記、支部長担当)



2. 第43回宮城県看護研修大会参加。(5月10日、当支部発表参加)
3. 日本看護学会 母性看護 宮城県担当、7月31日～8月1日。「助産師としての地域活動」を伊藤路子氏発表されました。
4. 母乳育児シンポジウム(仙台開催)に会員参加。(8月3日4日)
5. 性教育研究全国大会(於札幌8月6日～9日まで)理事会参加。
6. 医療事故と具体的なリスクマネジメント(安全と安楽)押田茂寛教授講演(8月4日、支部長参加)
7. 文化の日表彰該当者の推薦(県)11月3日。
8. 北海道東北ブロック研修会-担当岩手県。参加予定者11名。
9. 県主催14年度母子保健指導者研修会(8月22日、12名参加)
10. 子育て・思春期相談事業開始(サポートセンター内ブース、18名担当)
11. 思春期教育指導員研修会および思春期教育フォーラムの宮城県地域開催(11月16日17日農協会館。本部主催)県支部手伝い。



とこの時期は大きな行事がめじろ押しで超多忙という所です。5月の全国総会で石塚和子会長から近藤潤子会長に変わり規約の変更、厚生労働省への要望書の提出などの通知がありました。医療を取り巻く環境も改悪に向かっているような状況があります。知と技と愛に磨きをかけて前進しましょう。1年が過ぎるのが早いこと。14年度もより一層のご協力をお願いいたします。

1、お知らせ

重要

1、会費の自動振込み手続きはお済みですか？ まだの方、お急ぎください。

また手続きがお済みでない方が、若干名おられます。事務作業軽減のため、ご協力をお願いします。

日本助産師会宮城県支部14年度総会において、今年度より本部会費、支部会費とも自動引き落としとすることに決議されています。手続きがお済みでない方には、書類がお手元に届いていると思います。必要事項をご記入の上、支部長宅まで郵送してください。これまでに本部会費を自動引き落としにしている方は、手続きなしで平成15年度より、本部会費、支部会費ともに自動引き落としとなります。

なお、ご不明な点などございましたら、支部長までご連絡をお願いいたします。

(支部長 新田 双葉 Fax 022-357-6562)

2、性教育ビデオの貸し出し

日本助産師会作成の性教育ビデオが2巻配布されました。中学生向けと高校生向けのものです。思春期の保健指導に携わる方や興味のある方は、ぜひご活用ください。支援センター事務ブースで保管しています。お問い合わせください。

(022-266-8833)

なお、会員共有の財産ですので、利用が済み次第、速やかな返却をお願いします。



3、10月2日、第1回、パソコン教室 初心者向けの基礎の基礎。

支援センターでは、助成金を受けパソコンとプロジェクターを購入いたしました。皆さんに活用していただきたいと考えています。随時パソコン教室を企画していく予定。

第1回目は、電源の入れ方からEメールの交換が出来ることを目標に「初心者向けの基礎の基礎」講座を行います。

ご自身のノートパソコンをご持参いただいても結構です。お持ちでない方は支援センターのものをお使いいただけます。

日時 10月2日(水)10時~12時

会場 サポートセンター 会費 無料

先着 10名まで

申し込み先 青木 喜美代 022-229-5077

3、11月2日、第2回委託講習会企画 多数の参加をお待ちしております。

サポートセンターにおいて、開催予定です。詳しくは別紙にて、ご案内いたします。勤務調整の上、ぜひお運びください。日々の業務に翌日から役立つこと請け合いです。

4、11月16・17日 思春期教育フォーラム (宮城県会場)に参加しましょう。

本部主催の「子育て・思春期教育指導員研修会および思春期教育フォーラム」が、宮城県で開催されます。当支部でもお手伝いし、準備がすすめられています。フォーラムは、会員以外の方も無料で参加できます。お近くの方に御声がけください。詳しくは「助産師」Vol.56.No.3、99ページに掲載されています。そちらをご覧ください。

会場 仙台市農協会館(JR仙台駅東口側)

参加費 研修会 2000円、フォーラム 無料

問合せ先 助産師会事務局 03-3262-9923

5、各種団体よりのお知らせ

以下の書類が支部宛に届いております。興味のある方は、支部長までお問い合わせください。

- (国への)「要望書」
社団法人助産師会・全国助産師教育協議会
- 「思春期個別相談マニュアル」「思春期集団教育マニュアル(中学生編・高校生編)」社団法人助産師会
- 宮城県男女共同参画基本計画に関する意見を聞く会の開催案内。計画素案の入手はHPでも出来ます。
<http://www.pref.miyagi.jp/>
- 平成15年度「長寿・子育て・障害者基金」助成事業の募集。募集要項はHPでも入手出来ます。
<http://www.wam.go.jp/>
- 書籍案内「職場における母性健康管理」
女性労働協会

2、会員寄稿

施設紹介 東北労災病院

平塚 聖子

東北労災病院は、仙台市中心部の北側に位置する総合病院になります。病床総数500床のうち、産婦人科病棟は26床とこじんまりしていますが、分娩数は年間400件を越え、フリースタイル分娩を積極的に取り入れています。医師2名 助産師16名、看護師2名からなるスタッフのチームワークは優秀で楽しく元気に働いています。

産婦主体のお産を目指し、妊娠期より外来とコンタクト



をとりながら、満足感のあるお産、楽しい育児をすすめています。現在、フリースタイル分娩は約半数を占めています。最終的に半

座位を選ぶ産婦もあり、ほぼ8割は自分の望んだ体位でお産し、よかったとの声が聞かれます。

当院は母乳保育をすすめており、母児同室で自律授乳をしています。毎回授乳介助をベッドサイドで行い、自宅で

の育児に近い状況になるよう援助しています。プライマリーを中心に電話訪問、一週間健診を熱心に行い、退院直後の家での育児不安などの軽減に努めています。師長自ら率先して行う乳房マッサージは、授乳中の乳房トラブルはも



ちろん、他院で出産した方の母乳不足のケアから育児相談まで幅広く母子を支えようと活動しています。



先日、当院で生まれた人が、今度は子を産む立場になって訪れてくれました。自分の生まれた場所をしみじみと見て回り、我が子を胸に抱き、嬉しそうに退院していきました。母から子へとつながる愛情あふれる思いを、母子との関わりの中で大切にしたいと思いました。

来年には新病棟が完成し、混合病棟の中で助産師活動が求められていきます。病床数が増えても質の向上を目指し、母と子の笑顔を守れるよう仕事をしたいと思います。

故野窪支部長さんの思い出



会計 伊藤 祝子

去る六月、故野窪支部長さんの一周忌の法要に招かれました。あゝもう1年過ぎたのか - という月日の流れの速さに今更のように感無量の思いで家を出ました。電車に乗り塩釜の雲上寺に着くまで、私の頭の中は先生の事があれこれ思い出され、今から私は先生に会いに行くんだ、そして

御無沙汰していた空白の時間の積もる話をしにいくのだ、という錯覚にとらわれました。しかし現実には先生の法要の席でした。遺影は香の煙りに包まれて私を優しく見ていました。人間は誰も死を迎えるのだということは判かっているにも淋しく悲しく虚しいことなのでしょう。先生と出会いからの数々の思い出が胸一杯に広がってきます。

先生は偉大な女傑でした。助産婦としての技能は勿論、研究熱心で、中でも乳房手技の術は魔法の手と称され、当時その右に出るものはなく、私たち仲間の羨望の的の方でした。仕事に対する情熱は厳しく、男性的な行動は本当に目をみはるものがありました。

平成八年、香川県の高松での全国大会の際には私も代議員として出席しましたが、その会場で選挙の結果、先生は高得点で全国の副会長に再任されました。翌年日本助産婦会創立70周年が東京都、九段会館で行われその記念式典では、



伊藤 祝子 会計

皇后陛下のお出ましの名誉ある式に参列し大役を果たされたことは、先生本人は勿論の事、私たちの先輩とし誇りでもあり栄誉でもありました。先生もあの時はしあわせを一身に受け花開いた人生でしたね。

次いで平成十二年の春の叙勲で勲5等の賞を皇居で受けられました。功績ある先生として当然のことではありますが、本当に人生最高の栄誉です。私たち助産婦会としての栄誉でもありました。

先生は何でも出来る方。半世紀をこの道に情熱を傾けられ研修会の講師選定にはその力強い人間関係の中から交渉し自ら足を運び奔走して下さっていました。しかも自費でという状態でした。会計の私としても規定の額しか出すことが出来ず、今考えてみますと申し訳なかったと後悔しています。先生は先見の明があまりで少子高齢化時代開業助産婦だけでは先細りであることを予測され早くから勤務助産婦の加入に尽力されました。そして時代に合ったシステムづくりに心を痛めておりました。それらを計画さ

れ着々と進められていた矢先の事でした。

法要の席で先生の肉親の方、幼な友達の方と親しく話をする機会がありました。その中で先生の幼な友達の娘さんが語られた、一コマです。

「幼かったある日、おばちゃんのお宅を訪れました。おばちゃんは喜んで迎えてくださいました。そして今まで見たことのない美しい塗り物の器で、美味しい料理を御馳走になりました。その時のうれしかったこと、終生忘れられません。幼い私を一人の人間として、もてなして下さいました、おばちゃん・・・。教えられました。私は今、おばちゃんの教を生かしています。」と結ばれました。

先生が厳しく男性的な反面、女性としての情細やかな気配り心使いを垣間見た思いがし、先生の優しい人間としての姿を思い浮かべ一生懸命に生きた先生の真の心に触れた思いです。今は永い人生の旅を終え永遠の眠りについた先生、社団法人格を大切に、日本助産師会宮城県支部をこよなく愛し発展することを切望していた先生。

今、宮城県支部では新しい役員の新々な発想で「宮城県支部だより」と銘打っての機関誌発行、「子育て女性健康支援センター」が立ち上げられ着々とすすめられている。国際助産婦の日の記念イベントも盛会裏に終わりました。みんなで新しい事業に取り組んで会を盛り上げていますので、安らかに見守ってください。遺影の中から「ガンバッテネ。」と呼びかけているようです。私もこの道を選んだ一人として、先生にいつかあの世でお会いした時、「ガンバッテネ。ゴクロウサマ。」といわれるように残された命をかけて生きていきたい。

こんな事を回想しながら法要の席を辞してきました。



歲月や
尚声残る
ホトトギス

3、第1回県委託講習会報告

7月13日開催

1、「宮城県の母子保健の現状について」

講師 宮城県保健福祉課子ども家庭課
主任主査（保健師）後藤 百合子 先生

各種統計資料を提示していただき、宮城県の具体的な現状についてご講義いただきました。全国的な少子化により、合計特殊出生率は平成12年で全国と同率の1.35ですが、出生率は全国平均より0.01下回る9.4。国の策定した「すこやか親子21」を踏まえ、「みやぎの福祉夢プラン」と題した事業が数値目標を上げて計画され、実施にむけ動き出しているとのこと。

特に子どもの虐待対策として、エジンバラ産後うつ病質問紙票（EPDS）を活用したアセスメントについては興味深くうかがいました。

また、10～20代の人工妊娠中絶の増加について。性に対する感覚が時代の変化とともに違ってきているので、いっそう対象者に寄り添った形での保健指導が必要とされており、同世代によるピアカウンセリングの手法が注目されているとのことでした。

私たちは、目の前にいる一人の症例のために夢中になりがちですが、もっと長期的な視点で、どういう社会にしていきたいのか、そのためにどう環境を整えていくかという思考回路も持たなくは、と思いました。「もっと、行政を活用してください。」とおっしゃられた先生の言葉が印象的でした。

子ども家庭課ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/kodomo>



2、「助産師の責任と医療事故 PART 2」

講師 弁護士 山田 忠行 先生

ユーモアをまじえた楽しい語りで、医療訴訟の実際について詳しくお話いただきました。34件もの判例を資料と

して提示していただき、いかに産科関連訴訟が多いのかわかります。これらはインターネットでも検索できます。

提訴されるのは、事件が起きた直後ではなく、しばらく時間がたってからといことの方が多く、普段からのカルテの記録を整えておくことが、とても重要となる。原告からの訴えがあると裁判所は被告（病院）へ証拠保全のためにカルテの提出を求める。カルテ改ざんを予防するために求めから1時間以内の提出を要求されるそうです。そのときの様子は、お話としてうかがう分には面白く聞かせていただきましたが、実際、我が身に降りかかったときのことを思うと、とても平常心では、いられないだろうと想像しました。

振り返りサマリーを書いておくことなどはよいのですが、カルテにあとから修整した跡を残すことは、医療者側に非常に不利になるので、医療側にミスがあっても、なくても事実を正確に記録しておく事が、万一の紛争時に役に立つとのことでした。

また、争点となるのは、「当時の医療水準として妥当な対応をしているか。」という点。よりよいケアを医療利用者へ提供していくのはもちろんのこと、訴訟対策としても、日進月歩の医療レベルに遅れないように、常にアンテナを高く情報を捉え、自己研鑽が欠かせないのだという思いを強く持ちました。



3、「更年期のからだと心」

講師 いけの産婦人科小児科医院
院長 池野 暢子 先生

会員の体験や症例の話題提供に応じて、講義を進めてくださり、終始和やかに有意義な時間をもてました。更年期障害の発生機序と最近話題のホルモン補充療法について具体的にお話いただきました。ホルモンというと毛嫌いする方もまだ多いようですが、閉経後の人生が長くなり、人生の質ということを思うとき、劇的に快調を取り戻すかたも多くなりそうなので、試す価値は大きいと思われました。

更年期障害は、全身の様々な症状として現れるので、産

婦人科の門をたたくまでは、各科を漂流し「異常なし」を宣告された後という事になりがちです。そんな方に出会ったとき、「ホルモン補充療法」というのも、ありますよと選択肢を提示するのが私たちの役目だと思いました。

先生は、久しぶりに帰宅した息子さんとの食事のことを話題にされ、「愛する人のために食事を整え、会話をしながら食べるということが、いかに素晴らしいかということを知った。栄養を計算され患者さんには美味しいと好評の病院食を食べる事が多かったが、冷奴にお醤油程度のメニューでも、全然味が違って思えるんです。」また、定期的な運動の大切さについても、ご自身のゴルフ仲間とのやり取りを紹介され、どんなに診療で疲れていてもグリーンに出るとまた元気が湧いてくるとのこと。多くの分娩を担い、ご多忙な日々を送っていらっしゃる先生が、美しくはつらつとしておられる理由はそこにあるのかと思いました。日常生活のちょっとした工夫が、大きく心とからだに作用するようです。

いけの産婦人科小児科医院ホームページ

<http://www.ikeno-clinic.com>



(伊藤 朋子)

学習会のご案内

1、すくすく子育て研究会第8回研修会

日時 平成15年1月16日(木)

1時半～4時半(受付は1時～)

内容 タッチケア講習会 わいわい検討会

会場 仙台市市民活動サポートセンター

2、小児保健研究会

日時 平成15年1月16日(木)

テーマ 「母乳育児」

講師 宮城子ども病院

副院長 堺 武男 先生

会場 アエル

参加費 1000円

問い合わせ 1, 2とも 青木 喜美代

022-229-5077

支部だよりについての問合せ・投稿先**

〒981-3131 仙台市泉区七北田字東裏46-1 (伊藤)

022-772-5960

Fax 022-772-5961

**社団法人 日本助産婦会 宮城県支部 **

〒985-0822 宮城郡七ヶ浜町汐見台南1丁目1-5

支部長 新田 双葉

Fax 022-357-6562
